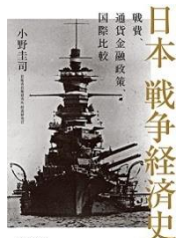


## 第二百五十三話 戦争は金食い虫だ！

戦争を多角的にみるには、やはり「戦費」が幾ら懸ったのかを知る必要があるのだろう。ある本を読んでいる最中にそのことを知らされた。好個の参考書がある。それは、防衛研究所の研究官小野 圭司氏がまとめた「日本戦争経済史」（日本経済新聞出版 2021/5/22）なる大著である。関心のある向きはぜひチャレンジして頂きたい。



### 1 内容紹介（amazon の同書紹介文を引用）

「先立つもので苦労した戊辰戦争」「対露戦争準備という陰のテーマがあった日清戦争」「財政の持続可能性という面で危機にあった大正期の軍備拡張」――。

出兵をすると経費が発生する、それゆえ議会の承認をえなくてはならない。戦争には輸送費、弾薬費諸々のコストが発生するため事前の見積もりが欠かせない、その上そのコストをどのように調達するかは国家にとって難問だ。また対策は、戦費調達という財政面に止まりません。国内資金の吸い上げ、償還を効率的に進めるインフレ政策など金融政策も対になります。第1次世界大戦時のクレマンソー仏首相が述べたように「戦争は将軍だけに任せておくにはあまりに重大な事業」。戦争はマクロ経済学の視点から分析されるべき対象なのです。

このように戦争と経済は切っても切れない関係であるにも関わらず、日本では正面から分析されては来ませんでした。戦前は机上の空論の統制経済論で終始し、戦後は実証分析を牛耳ったマルクス経済学者が戦争をネガティブな存在とし、経済問題としてとらえることは論外だったのです。同様に戦史研究はアカデミックな世界では戦後長らく等閑視される一方、戦史研究家は経済への関心が薄く、戦争と経済という枠組みでの研究成果はわずかに松方財政、金解禁、高橋財政などの政治史アプローチのものがありました。

本書は、戊辰戦争から太平洋戦争までの日本が直面した戦争をマクロ経済面から分析する初の書。（中略）「経済と戦争」という問題設定で日本が経験したすべての戦争を分析する。

- 2 目次等省略
- 3 戦費概算

|                              |         | 戦費概算<br>(円) | GDP 比(倍) | 国家予算比(倍) |
|------------------------------|---------|-------------|----------|----------|
| 日 清 戦 争                      |         | 2.3 億       | 0.17     | 3        |
| 日 露 戦 争                      |         | 20 億        | 0.6      | 6.5      |
| 大東亜戦争                        | 名目上     | 7600 億      | 33       | 280      |
|                              | インフレ率考慮 | 2000 億      | 8.8      | 74       |
| 大東亜戦争の戦費（現在の GDP 換算）：4400 兆円 |         |             |          |          |

経済体力を遥かに超える戦費調達の困難性、長期にわたる償還の困難性、国家経済や国民生活への甚大な影響等を考えれば、戦争は回避したいと願うのは当然だが、已むに已まれぬ場合も当然あるのだ。戦わずして屈するは真の滅亡なれば。

（了）